

平成 25 年度 第 1 回学校関係者評価委員会議事録

(学校法人大阪滋慶学園 全体会)

開催日時：平成 25 年 10 月 18 日(金) 時間：18:00～19:00

開催場所：大阪医療福祉専門学校 3 階大教室

司 会：猪尾事務局長

書 記：千葉教務部長

出席者 敬称省略

業界代表

三原 修 (大阪府理学療法士会 常務理事、日本理学療法士協会 代議員、
大阪府作業療法士会 外部理事、大阪府理学療法士連盟 副会長)
永山病院 リハビリテーション部長、介護事業部 特別顧問

湖崎 淳 (大阪府 眼科医会) 医療法人 湖崎会 湖崎眼科 院長・理事長

高校関係者

中山昭彦 大阪府立東淀川高校 校長

卒業生代表

段上靖治 (同窓会会長) ボバース記念病院 リハビリテーション部

保護者代表

谷 真由美 作業療法士学科 2 年生

近隣関係者

田中幸恵 (保護司) 法務省 淀川地区保護司会

学校側参加者

浮舟邦彦 学校法人 大阪滋慶学園 理事長

橋本勝信 学校法人 大阪滋慶学園 常務理事
大阪医療福祉専門学校 学校長代行

猪尾 卓也 大阪医療福祉専門学校 事務局長

千葉 一雄 大阪医療福祉専門学校 教務部長

赤松 滋子 大阪医療福祉専門学校 教務部長

宇野 正明 大阪医療福祉専門学校 事務部長

会議の概要

- (1) 学園関係者の紹介
- (2) 浮舟理事長の挨拶と学園の教育理念
- (3) 委嘱状交付 代表授与 (大阪府理学療法士会 常務理事 三原 修氏)
- (4) 大阪滋慶学園の法人の取り組み

<議事録 詳細>

I. 浮舟邦彦理事長より法人代表挨拶と学園の教育理念の紹介

1. 専門学校とは

① 専修学校と専門学校制度の変遷

○昭和 20 年に学校教育法が改定され、学校教育 1 条校とは幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校、盲学校、聾学校、養護学校をさす。社会の進化から、昭和 51 年に専修学校制度が施行されました。これは学校教育法第 82 条 2 項に掲げられた。その後、1 条校との差別撤廃が叫ばれる中、平成 25 年 8 月に文部科学省の専修学校における職業実践課程認定校制度が制定され、それに基づいてこの委員会が発足した。

② 学校数・生徒数・入学者数の推移

○平成 5 年から 25 年の変遷の中で、短大は入学者数が 19 万人減少し、6 万 5 千人になった。一方短大から大学化へ移行した結果、大学は 55 万 5 千人となり 6 万人増加した。専修学校は 32 万人と僅かに減少した。平成 25 年は 18 歳人口 120 万人に社会人も含めての推移である。

③ 複線化する教育状況

○専門学校制度化された当時は大学の補完作用であったが、社会の変化とともに大学を出て専門学校へ入る学生。大学卒の 2 年課程、4 年制の高度専門士を出ると大学院入学資格を持つまでになった。さらに、通信制や単位制など複線化した専門学校になってきた。

④ 入学者数・進学率の推移

○いざなぎ景気、バブル景気と右肩上がりの時代から平成 3 年にバブル景気が崩壊し、近代工業社会から知識社会に変化した。医療福祉の人材が必要になり、スペシャリストが中心となる社会。ゼネラリストからスペシャリストへの移りは、会社から仕事に意識が変わっていく時代。平成 4 年 18 歳人口は 205 万人であったものが、少子高齢化が進み、右肩下がり平成 25 年には 123 万人まで下がった。滋慶学園では、危機感を持ち平成 4 年より第 1 期 5 カ年計画を立て、今年第 5 期の 2 年目を進行中である。大阪医療技術学園は 1983 年にスタートした。グループの学生数は平成 3 年に 10 校 1 万人が、第 4 期が終わった時点で 56 校 3 万 3 千人となった。数字を追い求めたのではないが、どんな学校作りをしたいのか(理念)を真剣に考え、しっかりした基盤の上に計画と運営に心掛けた。

⑤ 滋慶学園グループ

現在、北海道 7 校、仙台 2 校、東京・埼玉に 21 校、愛知に 2 校、大阪・京都・神戸に 21 校、福岡 6 校、島根 1 校。合計 60 校

大阪滋慶学園は1983年にスタートし、昨年度は出雲市から依頼を受け、さらに鳥取市からも同様に受けている。

⑥ グループで学べる職種

○医療・福祉・保育、健康・スポーツ、動物・海洋・環境、テクノロジー・バイオなど500職種を学べる養成課程を持つ。半数は厚生労働省の管轄資格である。

⑦ 厚生労働省関係の人材育成。

○厚生労働省受験資格にある「あん摩マッサージ指圧師」「准看護」「診療放射線技師」「理容師」「栄養士・管理栄養士」以外の医療系、福祉系、衛生系の受験資格を養成している。

2. 学園の教育理念

① 教育力・運営力向上の取り組み

○学校の教育力運営力を高めるために、滋慶教育科学研究所を第1期5カ年計画の2年目（平成5年）に設立した。毎年、学会の開催や事例検討の実施。教育部会の開催。他にカウンセラー委員会、キャリア教育委員会、教材研究委員会、進路変更委員会などの開催。その他、新入職者研修、マネジメント研修などの多くの研修を開催している。さらに国家試験対策センターを設立し、国家試験を100%達成するためのメソッドの開発などに取り組んでいる。

単体の学校ではできない、グループ企業のスケールメリットを活かして、教職員の質的向上に向けた取り組みのシステムを構築し、ノウハウの蓄積をしている。

3. 職業教育の重要性

① 就職率の推移

○学校種別に就職を見ると大学60.8%、高等学校51.5%、専門学校74.7%と高いものの、大阪滋慶学園および滋慶学園グループは就職100%でキャリアセンターは就職後もお世話をしている。

② 企業等・働く人々・若者をめぐる状況

企業の状況変化はグローバル化、産業構造の急激な変化、終身雇用の見直し、企業内教育・訓練の縮小。またキャリア変更を求められる可能性が出てきて、非正規雇用が増えた。その中で小・中学校の不登校が12万人となってしまう。中学は義務教育のため留年がなく、必要な知識がないまま、進学や社会に出てしまう。大学を出てもフリーター180万人、就職につかないニートが60万人など深刻な問題が起こっている。

③ 高等教育機関への期待

○職業教育を通じて、自立した職業人の育成し、社会・職業に円滑に移行させる。

○既存の高等教育機関において新たな枠組みの趣旨を活かす方策から、先導的思考として平成26度より職業実践専門課程がスタートする。

④ 職業実践専門課程の認定

○学校関係者委員会には業界、OB、OG、高等学校、保護者、地域の方々に自己点検・自己評価を見て頂き、業界団体の連携体制により演習・実習などを通じた産学連携が大きなカギになり、業界が求める人材を養成する。そのためにはMissionを掲げ、教育力向上のために研修を受けて高める必要があり、Faculty Development(FD)の3つが大きな柱になる。我々は開校以来、滋慶教育科学研究所を作り、研修、委員会、教材開発を行ってきたことは、正にFDを行ってきたことである。また、今後はそれぞれ学科には教育課程編成委員会が設けられ、業界からのご意見を頂き、カリキュラム改善し、自己点検を行っていく。学校評価を情報公開しながら教育効果を上げていく。我々の学校は、職業実践課程の申請を積極的に行っていきたい。

4. 学園の教育理念

① 3つの建学の理念と4つの信頼

○開校以来「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションに掲げている。実学教育は「社会で即戦力となりうる人材には、技術を身につけて社会に出て行って貰う」。プロとして、スペシャリストとしてしっかりした人間性を持ち、人間教育の重要性とさらにグローバルな社会において、国際感性を持った人材の育成や、職業教育にとって重要な3つの柱になる教育理念を掲げて教育を実践している。

人間教育はキャリア教育に換えて、体験入学でやりたい仕事を見つけ、目的・目標をもって入学してもらい、国家試験があるなら全員を100%合格させることが仕事である。「いつも笑顔で挨拶を」掲げ、自己の働きかけから自律をし、業界との連携は非常に重要で企業プロジェクト、インターンシップや海外研修などに参加して主体的に取り組んでいる。

目標をもって始めること、時間管理のセルフマネジメントからチームマネジメント、リーダーシップの重要性、リーダーを支えるフォロワーシップ、チームの一員としてのフェローシップを学び、業界でスペシャリストとして学んでいくことを大切にし、それに基づいて行動が取れるような人材を育成することが大切である。

II. 委嘱状交付

代表者のみ。大阪理学療法士会 常務理事 三原 修様に浮舟理事長から委嘱状を交付した。

Ⅲ. 橋本勝信より大阪滋慶学園の法人の取り組み

1. 学校法人大阪滋慶学園の組織体系

理事会組織による運営を行い、理事長浮舟邦彦、常務理事橋本勝信、理事、評議委員のメンバーにより構成されている。すべてをこの組織において決済の承認を得ている。その下に①滋慶医療科学大学院大学、②大阪ハイテクノロジー専門学校、③大阪保健福祉専門学校、④大阪医療福祉専門学校、⑤大阪医療技術専門学校、⑥大阪医療看護専門学校、⑥出雲医療看護専門学校、さらに鳥取市医療看護専門学校が準備されている。

滋慶医療経営管理研究センターでは業界の方々へ医療セミナーの開催および就職フェアではキャリアセンターと共に運営をしている。アジア職業人材養成センターでは、提携先である中国各大学の留学生を受け入れ1年間の日本学校から国家資格の養成と資格を経て、日本の病院で働く新しい制度に取り組んでいる。

2. 滋慶医療科学大学院大学の紹介

わが国初の医療安全管理学専攻は、病院の中の医療事故の防止とリスクマネジメントの人材養成を行っている。学生は臨床系からの現職員が大半である。

⑤は最初の学校で1983年に設立し、財団法人として運営を行っていたが、1987年に学校法人大阪滋慶学園を設立した。文科省管轄に移管した時に⑤は学校法人に移管致した。

3. 大阪滋慶学園の強み

早期からインターシップや学外実習に出かけ、1週間から長いものは2ヶ月の実習に参加する。実習先は2,983ヶ所にも上る。さらに卒業研究の取り組みを1988年から実施し、グループでテーマの選出からデータ収集・分析とまとめをプレゼンテーションの場として発表し、業界から多くのご参加を頂いている。

4. 国際教育の取り組み

アメリカ西海岸をはじめ中国の環太平洋地域と連携を持ち、24校と海外提携を結び、30年の実績を持っている。Two Way の関係を持ち、海外から38名の留学生が専攻科へ入学し、日本の大学院ならびに業界に就職している。

5. アジア医療人材養成の連携作り

昨年4月22日に大阪国際会議場にてアジア10カ国から参加され、アジア臨床工学フォーラムを開催した。滋慶医療科学大学院大学、大阪滋慶学園、文部科学省の後援を得て2年毎の開催を計画している。

6. 就職内定率（キャリアセンターの取り組み）

24年度を含めた3年間の実績から100%就職実績を得ている。最近では就職試験に落ちる学生も若干名いるが、求人数、求人情報数は増えている。

7. 卒業生「生涯教育の取り組み」

鍼灸師の国際生涯教育の取り組みとしては、上海中医薬大学大学院の修士課程を

日本で学べるシステムを合作し、修了した学生には実務者レベルで国際中医師、国際鍼灸師の国家試験が受けれるようにプログラム化している。

8. 大阪滋慶学園の生涯教育の取り組み

卒業後に滋慶医療管理センターのセミナーに参加して、滋慶医療科学大学院大学まで学べるように Step Up Step できる様に配備している。

9. 2013 年度の取り組みの紹介

5 月に 200 社の企業が出展され就職フェアの開催をした。大学院大学の学位記授与式の様子や海外で活躍する卒業生などの紹介などを紹介した。今後とも宜しく大阪滋慶学園のご支援をお願い致したい。

平成 25 年度 第 1 回学校関係者評価委員会議事録

(大阪医療福祉専門学校 分科会)

日時：平成 25 年 10 月 18 日 (金) 19 : 15～20 : 15

場所：大阪医療福祉専門学校 4 階 403 教室

司会：猪尾事務局長

書記：宇野事務部長

出席者 敬称省略

外部：三原 修(業界代表)・中山 昭彦(高校代表)・田中幸恵(近隣関係者代表)・谷 真由美(保護者代表)

段上 靖治(卒業生代表)

※湖崎 淳(業界代表)欠席

内部：橋本 勝信(学校長代行)・猪尾 卓也(事務局長)・千葉 一雄(教務部長)・赤松 滋子(教務部長)

宇野 正明(事務部長)

1. 学校長代行より、開催の挨拶
2. 事務局長より、下記配布資料の確認を行う。
 - ・組織図
 - ・学校関係者評価委員会名簿
 - ・学校関係者評価規程
 - ・学校関係者評価シート
 - ・平成 25 年度重点目標と達成計画
 - ・特定非営利活動法人私立専門学校等評価機構 第三者評価修了証(写し)
 - ・一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構 認定証(写し)
3. 事務局長より、組織図により本校の学校関係者評価委員会の位置付けについて説明した。

配布資料の学校関係者委員会名簿により、三原 修(業界代表)・中山 昭彦(高校代表)・田中幸恵(近隣代表)・谷 真由美(保護者代表)・段上 靖治(卒業生代表)及び学内委員千葉 一雄(教務部長)・赤松 滋子(教務部長)・宇野 正明(事務部長)を紹介する。

なお湖崎 淳(業界代表)については、診察の為欠席の報告を行った。

4. 事務局長より、学校関係者評価規程により、第 10 条委員会目的、第 11 条委員会組織、第 12 条委員会任期の確認を行う。第 14 条で委員会実施及び結果を理事会で報告すること、第 16 条で委員会評価の公開を行うことを説明する。第 17 条で在任中に知り得た情報については、第 14 条に係る情報以外を他に漏洩しないことを確認する。

5. 学校関係評価委員委嘱状交付
学校長代行より全体会にて 5 校代表として交付した三原 修委員、学校代表として交付した谷 真由美委員以外の委員に対し委嘱状の交付を行う。

6. 平成 24 年度自己点検・自己評価の内容の説明
事務局長より、平成 24 年度本校が実施した自己点検・自己評価内容を、下記 11 項目についての概要をパワーポイントにより説明する。
 - ・教育理念・目的・育成人材像について
 - ・教育活動について
 - ・教育成果について
 - ・学生支援について
 - ・教育環境について
 - ・学生の募集と受け入れについて
 - ・財務について
 - ・法令等の遵守について
 - ・社会貢献について
 - ・国際交流について以上 11 項目

7. 平成 25 年度重点項目の説明
事務局長より、別紙重点目標と達成計画により、人材育成、人事考課制度、業務効率化、FD、国家試験対策、退学率の低減、卒業生の社会的活躍及び評価の把握、施設・設備の更新計画、防災対策、学生募集、就職目標、学費未納対策の項目単位で目標と達成計画・取組方法について説明する。
特に課題となるのは、退学率の低減であり、学生一人一人をしっかりと対応し、進路変更も視野に入れた指導を図っていくとの説明を行う。

8. 学校関係者評価シートの記入方法説明
11 大項目を 48 項目に分類した中項目を点検・評価項目を 3 段階で自己評価し、点検・評価項目総括と特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）を文書化した評価シートによる、本校の 3 段階評価及び意見について、今月末を目途に提出を依頼した。

各委員より、内容は素晴らしく問題は見当たらないが、文書化された内容について3段階で評価するのは難しいのではないかと意見が出された。今後達成目標を客観的に指標で示す等工夫が必要かと思われる。

9. 質疑応答

三原 脩

業界代表として、貴校と連携を取り業界の発展に努めてきている。貴校はしっかりした教育理念を掲げ実践しており、素晴らしいと思っている。実習生として貴校の学生を受け入れているが、学校で学んでいるはずの基礎知識の内容が臨床現場で活かされていないケースが見受けられる。基礎科目どうしの繋がりが乏しく、患者の現象が理解できていないのではないかとと思われる。学内教育の場面でいかに臨床に即した内容で考えることができるかが重要と考える。しかしながら、そういった部分を補うのが臨床実習であることは十分承知しており、責任を持って貴校と連携を図り学生指導に当たっていく所存である。

細かいところでは、夜間部の学生に対する時間的な配慮、メンタル的な問題を抱える学生対応、卒業生に対する対応等も検討いただきたい。

中山 昭彦

学校長の立場として、高等学校の現状の基礎学力の低さに苦慮しており、貴校の入学前及び入学後の導入教育に興味を持った。勉強の仕方、ノートを取り方から指導しているがなかなか成果に至っていないのが現状である。特に理科・数学に問題があり、明らかに勉強不足が原因であると思われる。

特に割り算・分数・割合等の理解ができていない。例えば、バーゲンの20%オフの意味さえ分っていない学生もいる。改善の具体的な対策として、本校は1年生全員に、英検取得を課しているが、達成感を体験させてやることで本人の自信になっている。今後もアクティブラーニング等による能動的な学習方法が有効かと思われる。退学については、一般教養の段階から専門的な講義に入る事に対応するだけのモチベーションをしっかり持った学生が入学しているのか少し気になる場所である。入学時点での志望のミスマッチを防ぐ手立てが必要かもしれない。

田中 幸恵

保護士として地元の子供と接しているか、貴校の取り組みに感動を覚えた。本来家庭で行うべき教育を貴校がやっていると思う。貴校の理念の一つである人間教育は教育の根幹と思われる。貴校を訪問させて頂いた時に、貴校の理念である「今日も笑顔であいさつを」という看板を掲げられ、学生さんが挨拶を実践されていることは素晴らしいと思う。自分自身が関わっている地域の小学校にも、貴校の取り組みについて

話をするつもりである。

谷 真由美

保護者の立場として、娘を貴校に入学させたことに誇りを感じている。私自身も貴校のオープンキャンパスに実際に参加し、保護者会でしっかりした教育理念を聞き、安心して入学させた経緯がある。今後も貴校としっかり連携を取りながら、目標達成してくれることを望んでいる。今後学校と家庭の連携を蜜に学生指導の徹底を図っていただくことを希望する。

段上 靖治

卒業生の立場として、貴校の教育方針に共鳴し入学した経緯がある。現在母校で学んだ内容を実践し、一生成長していきたい。現在講師として貴校の学生指導の一端を担っているが、10年のブランクに直面している。今後在学中からポストカレッジの重要性を示していく教育の実践を期待する。

事務局長より

湖崎先生については、本日、診察業務の為欠席されているが、事前に下記の通り意見をいただいている。

湖崎 淳

医師や看護師は学会発表や論文出稿等学術面等、積極的に自己を高めるべく生涯学習活動に取り組んでいるか、視能訓練士はやや消極的に見受けられる。是非とも学校教育における生涯学習を目指した教育指導に期待している。

10. 事務局長より、終了の挨拶

今回の委員会で頂いたご指導を十分にかし、次回の委員会で報告させていただきたい。今後とも一層のご指導をお願いしたい。

以上